

## こどもの明るい未来を願って

吉川慎之介記念基金

吉川 優子

2023年9月30日、日本子ども安全学会第10回大会を無事に結ぶことができました。2012年7月20日、息子の慎之介が亡くなってから11年が過ぎ、この間、2013年に発足した「学校安全と再発防止を考える会（以下考える会）」を発展させる形で、2014年9月7日、慎之介の誕生日に、同年設立した吉川慎之介記念基金の運営のもと「日本子ども安全学会（以下安全学会）」は発足しました。安全学会の活動を通じて、こどもの命と向き合い、保育・学校安全や再発防止と事故予防など、会員の皆さまをはじめ、遺族の方や有識者の方と共に考える機会を頂けたことに、心から感謝申し上げます。

慎之介の事故直後、保護者の方やこどもたちと一緒に原因究明を行いました。事故当時、再発防止の仕組みがない中で、こどもの死が繰り返されるという深刻な問題・課題に直面し、独自の事故検証、第三者委員会設置、責任の所在を明確にする裁判と同時に、ライフジャケット着用啓発をはじめ、再発防止と予防の取組、保育・学校事故に関する安全管理や事後対応などについて、多くの皆さんと一緒に向き合い活動を進めてきました。この状況を「変えたい」という思いを強く持つ一方で、なぜ、遺族がこのような活動をしなければならないのだろう、他人事ではなく自分事として考えてほしい、どうすれば幼稚園や行政は対応してくれるのだろうと、どうにもならない閉塞感に心が折れてしまいそうになった時もありましたが、「今、できることを精一杯しよう」と行動してきました。前を向く力をくださった皆さんと一緒に、一步一步、進み続けることができましたと思っています。

現在、愛媛県西条市では事故の教訓をいかす取組が進み、国では、保育・学校安全に関するガイドラインや制度が整備されはじめ、安全学会でも提唱してきたチャイルド・デス・レビュー（CDR）、そして、2023年4月にはこども家庭庁創設、こども基本法も施行され、こどもの命を社会全体で守り育てるための政策実現を目指し、事業が進められています。

今であれば、慎之介の事故は起きなかつたらうと言えるような状況が整いはじめています。これまで、本当に多くの方が思いと希望を持ってこどもの命と向き合い、科学的な実践や取組などを地道に重ねて来てくださった結果だと思っています。

日本子ども安全学会は、深刻な状況を変えるために、遺族が声を上げなければならないというネガティブなスタートでしたが、これからは、こどもの命を守り育てるための様々な取組を広げるためのポジティブな活動へ進んでいくフェーズに入ったと感じています。

これからも、こどもの命を守るために大切な活動をしていきたいという思いは変わらぬまま、遺族主導の活動には区切りをつけて、皆さんと取り組んできた様々な活動と、素晴らしい出会いを繋いでいきたいと思っています。

こどもたちと共に幸せに生きる社会を創っていきましょう。